

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 02 08	中期総合計画主要施策番号		2-04,2-05		担当課	部・課	林務部 信州の木振興課	
事業名		信州の木お茶の間見学会支援事業				内線		3273		
						E-mail		ringyo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	県産材住宅への利用拡大を図るため、県民に県産材や県産材住宅の情報を直接的に発信する。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 木の家に対するニーズは高まっているが、県産材を希望する消費者はまだまだ少ない。								
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 製材工場側からの消費者への直接的な情報発信が不足しており、認証制度による品質性能やエネルギー負荷が少ない環境性の高さなどの県産材の良さが認識されていない。								
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 認知度のアップと、県産材情報を適正に伝えるための新しい情報発信方法が必要である。								
	事業内容	信州木材認証製品センターが行う、信州木の家サポーター(エンドユーザーである施主)が説明者となり、自宅を展示場として県産材住宅情報を見学者に直接発信する住宅見学会の実施を支援する。(補助率:【国】1/2)								
実施期間	H19 ~ H21		根拠法令等	森林・林業・木材産業づくり交付金実施要綱、木材関係事業補助金交付要綱(県)						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	・県産材や県産材住宅の情報を発信し、県産材の利用拡大を図る。		・県産材住宅の見学会を実施し、県産材住宅の認知度や理解を深める。			見学会を実施し、情報発信することにより県産材に対する認知度や理解が深まった。 見学会回数 89回 見学会参加者 2,035人			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	1,500	1,000	1,000	国庫・県庫	国庫		
	決 算 額 (B)		千円	1,500	1,000		実施方法	補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	0	0	0	歳出節別内訳等	補助金 1,000		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.25	0.20	0.20	(単位: 千円)			
	概算人件費 (C)		千円	1,785	1,430	1,430				
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	3,285	2,430	2,430					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	住宅見学会の実施		回	53	89	100	住宅見学会の会場提供者(信州の木の家サポーター) 50棟			
	住宅見学会参加者		人	800	2,035	2,200	参加者からは、実際に県産材で家を建て生活している施主さんと話ができ、住宅建築の際の参考になった等好評であった。			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	参加者の満足度は極めて高く、継続していくことで、参加者は増加していくことと予想される。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		住宅建設予定者の全てに「県産材住宅」という選択肢が発生することが理想であるが、まずは、住宅で県産材が利用されている状況を「見学会」という手段で伝えることによって、より密度の高い情報提供を行うことができる。継続的な情報発信を行う。							